

# 市民の多様性に配慮する Webサイト作り

ひとくちに市民といっても、さまざまな人々がいる。

障害のある人、高齢者、子供、外国人…。

すべての市民に開かれたアクセシブルなWebサイト作りに求められる配慮とは何だろうか。

関根千佳 =文

ユーディット 代表取締役  
情報のユニバーサルデザイン研究所

使いやすいWebサイト（ホームページ）作りについて考えるとき、だれの、どんなニーズにこたえるためのものか、を明確にしなければ、相手を満足させることはできない。行政とは、ホテルやデパートと同様、まちのサービス業である。顧客である市民それぞれのニーズをよく把握して、顧客満足度の高いサイト運営を心がけていくうえで配慮すべき点を説明していこう。

## 視覚障害のある方（全盲）

- 視覚的情報は必ず代替手段を用意して情報を伝える
- 音声で読み上げられることを考慮して、何があるのか、どこにあるのか、何ができるのかをわかるようにする
- デザインのためのテーブルタグは音声ブラウザで読み上げることを考慮して作成する

視覚障害には、全盲、弱視、色覚障害などがあり、そのニーズは多岐に渡る。全盲の方は主に音声ブラウザでWebサイトを読むことが多いが、盲ろうの方などは画面の文字を点字ピンディスプレイなどに表示して読む場合もある。

いずれにせよ、公開前には、音声ブラウザでの確認を行うことが望ましい。

## 視覚障害のある方（弱視）

- 見やすい配色を心がけ、コントラストに注意する
- 拡大表示することを意識して、関連している情報が点在しないようにする

- 点滅やスクロールなど変化するものは、コントラストや点滅スピードに注意する

弱視の方は、全体が見えにくい場合や、視野の一部が欠ける場合もあり、それに対するニーズは幅広い（図1）。視力を補うための画面拡大ソフトなどを使う場合もあるが、音声ブラウザを併用することも多い。

弱視の方は、弱い視力で重要な点を見落とさないよう、細心の注意を払って画面を見るため、非常に疲れやすい点も配慮して、見やすいWebサイト作りを目指してほしい。

## 視覚障害のある方（色覚障害）

- 情報の提供は色に依存しない
- 背景色と前景色のコントラストを強くする
- 文字や背景などの色は、ユーザーが独自の設定をできるようにスタイルシートで定義する

日本の男性の5%を占めるといわれる赤と緑の色覚障害（図2）。公的機関の広報物やWebサイトにおいては、さすがに赤地に緑の文字を置いたり、その逆というのは見られなくなったが、企業などでは散見され、残念である。

## 聴覚障害のある方

先天的、または若いころに聴力を失った方の場合、他者の唇を読んだり、手話でコミュニケーションをとることも多いが、高齢になって聴力を失った場合は、筆談や字幕など文字情報に頼ることが多い。視覚情報の多いWebサ

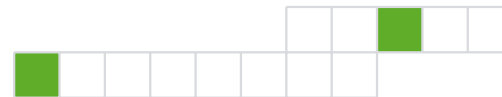


図1 ●弱視の方には全体がみえにくかったら、一部が欠けて見える場合がある



イトから情報を得るうえでは、あまり困難は多くないといわれるが、音声とともに流される映像などには、字幕を追加する必要がある。議会の中継などが行われる公的サイトでは今後、議論の要約などを文字情報で付け加えるサービスが求められると思われる。

## 肢体不自由の方

- クリックする場所が変化するようなスクリプトやプログラミングは使わない
- マウスによる画面上の移動はキーボードでもできるようにする
- Webサイトの操作部はデザインを統一し、わかりやすい画面設計をする

手の動きに制限があったり、まひのために正確に指示できなったり、また手が使えないため口にくわえたスティックや特殊な入力装置などを利用している人もいる。障害の状況によってニーズや解決策もそれぞれ異なるが、Webサイトを作成するうえではさまざまな点に配慮する必要がある。

## 高齢者

- 色や画像および文字の大きさに注意して、負担をかけないようにする
- 動きのあるものは早さなどに十分注意をする
- 外来語や英語表記を少なくし、簡単なことばづかいで記述する

視力が衰え、聴力が落ち、指先の巧緻性が落ちてくる高齢者は、加齢学的には軽度重複障害者といえる。外来語に弱い、専門用語がわかりにくい、新しいことを覚えにくいといった課題もあるが、この層はITが使えれば積極的に情報発信を行うアクティブな人々でもある。成人人口の50%が50代以上となる日本では、有権者・納税者・消費

者の半数を占めるこの層を公的機関も無視することはできない。

## 子供

- Webサイトの構成はシンプルかつストーリー性を持たせる
- わかりやすいことばづかいや文章を心がける
- 動画は動きの早い物(チラチラするような物)はさける  
あまり集中力が続かないため、一画面を短くするなどのくふうが必要である。

## 外国人

あまり日本語が得意でない人がWebサイトを見ることを考え、ことばづかいは平易でわかりやすいものにする。海外からの旅行者も考慮に入れると、最低限、英語での基本情報を掲載することが望ましい。

また、自治体内に住居を持つ外国人に対し、各国語で情報提供を行う自治体も増えてきた。その場合も、当然であるが、ユニバーサルデザインのサイト作成を心がけてほしい。

以上、さまざまな市民が持つニーズを解説した。だれもが参加できる社会を目指して、行政は先駆を切ってWebサイトのユニバーサルデザインに取り組んでいただきたいと切に願うものである。



図2 ●色覚障害の方は色を正確に把握できない

